

第2期平川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対するパブリックコメントの結果について

～貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました～

1. 募集期間 : 令和2年3月2日（月曜日）から令和2年3月19日（木曜日）
2. 意見の提出 : 市内法人1社（4件）、市民1人（2件）
3. ご意見の内容と回答

No	項目	意見等 ※一部抜粋にて掲載	市の考え
1		<p>【農業の多様性】 全国的な視点で見ると、「農業を始めたい」と感じ、移住などをして農業への職業選択を検討する層は、東日本大震災以降増加傾向にある。流通にのせず、自ら販売経路（ネット通販など）を形成する「小さな農家」が増加傾向にある。合わせて若年層ではオーガニック思考、有機農業への関心が高まっている。無農薬農家への関心や、農業従事者全員が持続可能な農業への意識を持つ機会があれば、平川市の農業の多様性へつながる。農業の多様性が生まれれば、平川市への移住検討者も増えるのではと感じる。そのためにも、農業者が従来の農業経営だけでなく、農業者自身の理念とビジョンから逆算した経営の視点を持ち、学び続ける必要がある。平川市として、学ぶ機会の提供と次世代の人材育成が必要と感じる。</p>	<p>市では青色申告の講習会や情報発信に関するセミナーを実施し、農業者が経営や直売による販路開拓に対して学ぶ機会を提供するとともに、国や県、JAなどで実施する各種研修会といった学習機会の周知を行っております。 今後も、関係機関と連携しながら、市内農業者の育成に努めていきます。</p>
2		<p>【大人の生の声をこどもたちへ届ける】 青森県の人口流出の傾向を見ると、18才と22才の年齢層で大きく転出率が上がっている。高校卒業や大学の進路選択のタイミングでの転出と考えると、そこにうまくアプローチができれば、転出することを選択したこどもたちもUターンを検討材料とする可能性が出る。そのためにも、官民が連携し、目標に向かって挑戦する大人の生の声をこどもたちへ届ける機会が必要と感じる。同時に一方向のコミュニケーションだけでなく、大人とこどもの対話を通じて双方に学び合う時間と場があると良いと感じる。</p>	<p>第2期平川市総合戦略では、若者の思いをまちづくりに反映させ、若者主体でまちづくりを進める仕組みを構築するため、「（仮称）平川市若者議会事業」に取り組んでいくこととしております。取り組みの中では、10代から20代までの若い方たちが考える平川市のまちづくりに係る事業について検討し、事業化することとしており、そのプロセスの中では、若者と市、また事業内容によっては地域住民や民間事業者も含めて話し合いを重ねることになると想定しており、若者世代の郷土愛醸成を図るとともに、大人とこどもたちがお互いに学び、理解を深める場を提供していきたいと考えております。</p>

No	項目	意見等 ※一部抜粋にて掲載	市の考え
3		<p>【家族の将来像 明確化】</p> <p>まちづくりの最小単位は家族だと考えると、家族の将来像（ビジョン）を明確化することがカギになる。平川市の全体像として「住みたい・産みたい・育てたい」を達成するためには、家族とのコミュニケーションの中で「これから家族がどう暮らしたいか、どう在りたいか」を描く必要がある。そのために、家庭でできる道徳や教養分野を重点的に取り組む必要がある。日常的な家族との対話やふれあいが、結婚・出産など人生のライフイベントに影響すると感じる。</p>	<p>平川市では郷土愛醸成の一環として、市内各校で、米・りんご作りや郷土料理、伝統芸能など、地域の自然や産業等をテーマとした学習活動に取り組み、これらを家庭や地域に積極的に情報発信しながら、平川市について、親子で一緒に考える機会を創出しております。また、子育てなどに係るPTA主催の家庭教育講座を開催するなどして、保護者同士交流する機会を設けております。今後も、このような取組を通して、将来の「住みたい・産みたい・育てたい」に繋げていきたいと考えております。</p>
4		<p>移住体験ツアーなどで、移住者と地域をつなげる動きをしているのはとても良いと感じる。移住者に必要な情報や体験ができる企画は素晴らしいと感じる。一方で「地域と移住者の信頼関係づくり」としては少し弱いと感じる。移住後の暮らしに必要なのは具体的な仕事をどうするかとか現実的な話を気軽にいつでも相談できる人とのつながりだと感じる。そこで、自治体窓口として移住者の悩みに総合的に対応してくれる伴走型の機関があったら良いと感じる。移住者の課題は多岐に渡る。仕事、子育て、雪国の暮らしなどをしっかりとヒアリングして、専門家とつないでくれるコーチ、カウンセラーのような動きのできるコーディネーターが必要だと感じる。</p>	<p>第2期平川市総合戦略の計画開始となる令和2年度において「移住支援員」を配置し、平川市への移住を促進するための手法の検討や市内で実施する事業のサポートなどを行ってもらうこととしております。</p> <p>また今後は、移住者の目線に立ち、関連情報の収集に努めてまいります。</p>
5	19ページ	<p>平川市では、『スポーツランドひらか』を掲げている運動施設がある。おおよそ、運動施設は整ったと思います。各施設の外周（テニスコートの外周・ひらか多目的広場の外周、陸上競技場の外周ひらかドームの外周）等を平日、土・日・祝日、午前・午後・夕方と時間は異なりますが（冬期間11月～3月除く）歩く人、ランニングする人、ノルディックウォーキングをする人、多数の方が利用しています。そこで、起点を作り距離がわかるようにアスファルトの路面に表示することを提案します。</p>	<p>スポーツランドひらかの外周道路については、用具の運搬に使用する管理用道路となっておりますが、特別に制限を設ける必要のない場合は、散歩やジョギングなど、市民の健康づくりにご利用いただいても支障はございません。</p> <p>今後、運動施設を活用した健康づくりの取り組みの参考とさせていただきます。</p>

No	項目	意見等 ※一部抜粋にて掲載	市の考え
6	19ページ	<p>ひらかドーム又は、ひらかわドリームアリーナへ平川市内のスポーツ施設（平川市尾上野球場・ゆうえい館含む）での開催の大会（土・日・祝開催の）が、一目でわかる掲示板の設置を提案します。</p>	<p>運動施設の利用状況やイベントの周知については、多くの市民の方に周知できるよう、ホームページや回覧、毎戸チラシ等でお知らせしております。今後は指定管理者とも相談しながらそれぞれの施設でイベント情報が分かるよう取り組んでまいりたいと思います。</p>